

**令和4年度 第1回川崎市社会教育委員会議
有馬・野川生涯学習支援施設専門部会会議録（要旨）**

日時 令和4年 7月26日（火） 14:00～16:00
会場 有馬・野川生涯学習支援施設 グループ室1・2
出席者 委員 本田 明子（川崎市立有馬小学校 校長）
野島 隆行（川崎市立有馬中学校 校長）
伊藤 昇（東有馬町会 会長）
津田 知充（宮前区第一地区社会福祉協議会 会長）
永野 勝（市民委員）
鴨志田 由美（市民委員）
小倉 敬子（公益財団法人 かわさき市民活動センター 理事長）
生駒 みを（菅生中学校区地域教育会議 議長）
指定管理者 山口シニアディレクター（アクティオ株式会社）
境館長（アクティオ株式会社）
事務局 宮前区役所生涯学習支援課 齊藤館長、岸本課長補佐
教育委員会生涯学習部 紺野担当係長 豊本担当係長

会議の成立（委員8名全員出席）

会議の公開・傍聴人 なし

次 第

- 1 あいさつ（市民館館長）
- 2 委嘱状伝達
- 3 委員・職員紹介
- 4 資料確認等
- 5 川崎市社会教育委員会議「有馬・野川生涯学習支援施設専門部会」について
- 6 正副部会長の互選
- 7 報告事項
 - (1) 令和3年度管理運営・事業・収支報告について
 - (2) 令和4年度事業・収支計画について
 - (3) 「市民館・図書館の管理・運営の考え方（案）」について
 - (4) その他
 - ア 次回の開催日日程について
 - イ その他

配布資料

資料 1 令和 4・5 年度川崎市社会教育委員会議 有馬・野川生涯学習支援施設専門部
会委員 名簿

資料 2 川崎市社会教育委員会議「有馬・野川生涯学習支援施設専門部会」について

資料 3 令和 4 年度第 1 回有馬・野川生涯学習支援施設専門部会資料

●令和 3 年度管理運営業務報告について

資料 3-① 令和 3 年度 管理運営業務報告書

●令和 3 年度利用実績・事業・収支報告について

資料 3-② 令和 3 年度 利用実績・事業・収支報告書

資料 3-③ 令和 3 年度 利用実績報告書

資料 3-④ 令和 3 年度 部屋別利用実績報告書

資料 3-⑤ 令和 3 年度 主催・協力事業報告書

資料 3-⑥ 令和 3 年度 収支報告書

●令和 4 年度事業計画について

資料 3-⑦ 令和 4 年度 事業計画書

資料 3-⑧ 令和 4 年度 主催・協力事業計画書

資料 3-⑧ 令和 4 年度 収支計画書

資料 4 「市民館・図書館の管理・運営の考え方（案）」について

(その他)

- ・アリーノニュース 7 号
- ・としょだより 夏号
- ・令和 3 年度活動報告書（教育文化会館・市民館）

開 会

1 あいさつ（市民館館長）

2 委嘱状伝達

3 委員・職員紹介

4 資料確認等

5 川崎市社会教育委員会議「有馬・野川生涯学習支援施設専門部会」について

齊藤館長より、資料 2 を用いて、川崎市社会教育委員会議「有馬・野川生涯学習支援施設専門部会」概要について説明

6 正副部会長の互選

川崎市社会教育委員会議規則第 6 条第 4 項に基づいて、部会長に小倉敬子委員、副部会長に生駒みを委員が全員一致により互選された。

7 報告事項

(1) 令和 3 年度管理運営・事業・収支報告について

●令和 3 年度管理運営業務報告について、境館長より資料 3-①を用いて説明。

●令和 3 年度利用実績・事業・収支報告について、境館長より、資料 3-②、

資料3-③、資料3-④、資料3-⑤、資料3-⑥を用いて説明。

(質疑応答)

特になし

(2) 令和4年度事業・収支計画について

- 令和4年度事業計画について、境館長より、資料3-⑦、資料3-⑧、資料3-⑨を用いて説明。

(質疑応答)

小倉部会長

昨年の専門部会で話題になった「ノルディックウォーキング」が加わって良かった。是非、参加者が集まってほしい。

予算が増えていることはいいと思う。

境館長

予算が増えたことで使命感を持って臨みたい。

小倉部会長

光熱費については、具体的に報告できないところもあるか。

境館長

4月～6月の実績が出たが、前年比150%～160%増えている。

小倉部会長

節電は行っているか。

境館長

間引いて電気を付けるなどしている。1階の児童室は19時過ぎると、子どもの利用がなくなってくるので、一部電気を消す対応をしている。こまめな対応が必要だ。

(3) 「市民館・図書館の管理・運営の考え方(案)」について、紺野担当係長より資料4を用いて説明。

(質疑応答)

小倉部会長

基本的には、直営から指定管理へ代わるということだが、人件費削減のメリットはあるのか。

豊本係長

今回、市民館全館と図書館で考えると1億2000万円ほど削減の予定だ。

小倉部会長

削減効果は問題になると思う。安い人件費で同等のことができるのか。委託する場合、人件費には雇用している人の保険や厚生年金なども含まれ増加するが、そこまで考慮しての削減予定か。

豊本係長

あくまで試算である。改めて、必要な経費を計算して算出したい。

小倉部会長

指定管理を受ける方は立場が弱い。経費の切り詰めるなどのしわ寄せがいかないよう、必要経費を算出してほしい。金銭面で指定管理にするのではなく、民間の活力やアイデアを盛り込み、より柔軟に運営するために指定管理を導入することであれば賛成だ。教育委員会では手本になるように取り組んでほしい。

社会教育指導員はどうするのか？今後同じような要綱になるのか。

豊本係長

全館統一的な考え方は変わらない。詳細について、今後設定していきたい。

小倉部会長

説明会等、様々なところで開催されていると思う。知人も多く出席し、内容を共有している。永野委員は、宮前区の説明会には出席しているか。

永野委員

市民館の移転の説明会や「あたらしい宮前市民館・図書館を考えるワークショップ」へ参加した。アリーノは「市民活動利用者連絡会」のように、市民と館とが上手に付き合っていると思う。宮前市民館は管理する側と使用する側という形になっているため、これからは、一緒に協働で作り上げることを考えていくことが大切だ。複合施設にもなるので、市民側と考えて共に作っていくことが必要になるだろう。検討してほしい。

小倉部会長

宮前市民館には、市民活動団体が自主運営するような仕組みは整っているか。

齊藤館長

利用について、現状、アリーノと同様の運営は行っていない。

小倉部会長

アリーノは生涯学習支援施設として、宮前市民館とは立場が異なるので、可能になったと思う。今後、川崎市としては、生涯学習支援施設としてのあり方を考えるのか、今まで通りの市民館としてのあり方を考えるのか。図書館についても、本の貸し出しだけでなく、様々な防災や見守りなどの中継地点になったり憩いの場になったり、子育て世代が集まる場になったりと様々な用途が出てくると思う。生涯学習や地域コミュニティを含めた市民館になってほしい。

アリーノは市民活動団体の自主運営で自由に使える場所がある。アリーノについては知られていないことも多いが、教育委員会としてはプラスの面を取り入れて参考にしてほしい。地域のコミュニティは市民館であるべきだと思っている。

豊本係長

アリーノについて、良い事例は活用していきながら、また、市民館の伝統的な部分も継続し伸ばしていきたい。良い市民館にしていきたい思いがある。

生駒副部会長

指定管理の主旨や目的があまり見えてこない。人件費の問題が前面に出ているよ

うに思う。考え方が市民に寄り添っているだろうか。市民が持っている多くの課題を吸い上げていくシステムを新市民館に取り入れてほしい。市民館を利用し活動している、特に若い世代が持っている課題を話し合い実現して解決していくことを考慮してほしい。

豊本係長

人件費の話ばかり上がったが、教育委員会としても市民館をより良くしていくことが目的だ。若い世代の利用率が減っていることもあるため、民間の指定管理者のノウハウを活用しながら市民館への来館を増やしたい。なおかつ、指定管理者制度を取り入れることで、管理運営をしていた職員がアウトリーチをして地域に介入することで、希薄なコミュニティの問題を解決したい。

生駒副部長

指定管理者の選定の方法は入札で決めるのか。選定は、値段が安価だけでなく、しっかり検討してほしい。

豊本係長

指定管理者制度においては、館を任せる役割があるため、値段だけで選定しない。公募し、プレゼンテーションを受け、川崎市に合った事業者を選定する予定だ。

鴨志田委員

「あたらしい宮前市民館・図書館を考えるワークショップ」に参加し、学生の参加もあり楽しく充実していた。機運が高まり期待感を持って参加した方たちとの関係はするのかわかるのか。自分たちの未来を描きながら推移を見守っていると思うが、指定管理者へ委ねられたことで連携が途切れないといいと思う。

豊本係長

利用者懇談会のような利用者が運営し要望できる場を設置した方がいいと考えている。市民館・図書館は利用者のための場であるため、利用者の意見を反映しながら使いやすい施設を作っていきたいと思っている。

小倉部長

学校としては、今以上に自由に夏休みや課外授業で使うなど、子どもたちが使うためのアイデアがあるか。

野島委員

昨年度は「あたらしい宮前市民館・図書館を考えるワークショップ」に小中学生が参加し、子どもの視点の話を聞いていただいていることはありがたい。意見が吸い上げられ、実現できたらいいと思う。だが、具体的に、指定管理者制度になった場合に良くなる点がわからない。

中学校の立場では、合唱コンクールで市民館の大ホールを使用している。大ホールがなくなると、中学校の生徒数800人弱と保護者を合わせた人数が入りきらず、カルッツかわさきなどへ出向く必要がある。本来ならば宮前区の中学校は宮前

区内で活動できたらと思う。

中学校でも今年度、英語指導のネイティブの先生の派遣会社が入札で変更になり、一部の学校では新たな会社からの先生の質が落ちているのではないかというような話も聞いた。指定管理者制度の導入で安く請け負うところを選ぶかもしれないが、入札時には、価格だけでなく、質を考えてほしい。

小倉部会長

宮前区の大ホールをどのようにするかは問題だ。鷺沼へ移転した場合、中ホールや小ホールと規模が小さくなる。宮前区にただ一つの大ホールがなくなることは、中学校だけでなくオーケストラのメンバーなども懸念している。地域の住民のことも考えてほしい。市民の意見を大切にしてほしい。

本田委員

小学校では、子どもたちの関心は地域に密着しているため、アリーノにはお世話になっている。将来、成長した子どもたちが自分たちで行動するときの足掛かりとして、保護者が子どもを連れて集ったり、利用したりすることが重要だ。子育て世代の意見を吸い上げてほしい。

小倉部会長

立地の近い小学校は使いやすい。鷺沼へ移転しても、アリーノのように使いやすく、気楽に小学生が使えるようになるといい。若い子育て世代が集えるよう、リースペースは必須ではと思う。

伊藤委員

行政と指定管理者で調整し、利用しやすいものができればいい。アリーノの令和4年度事業計画について、「アウトリーチ事業」を進めていきたいとあるが、具体的にどんな考えか興味がある。

境館長

今まで、アリーノは生涯学習支援の拠点として、地域の人を集めて事業を行うことに力を注いできた。有馬・野川生涯学習支援施設という名称ではあるが、野川地区に対する意識がまだまだ低い。受け入れ態勢はできつつあるが、さらに広げていくには、外に出る施策をアリーノが打つ必要がある。新しいことに対する一つの目指すところとして、外に出ていく、アウトリーチしていく必要があるとした。野川地区だけでなく、場所を選ばず、アリーノだけで開いていた催し物を外でもできるという事を広く知らしめていく必要がある。市民活動支援コーナーとも情報共有しながら進めていきたい。男性向けには歴史講座だったり、若い世代向けにはスポーツだったり、誰もが興味を引く観光ものだったりを外に出て開催できるのではと意識を持っている。

伊藤委員

地域的な交流を考えるとアウトリーチ事業を進めることは、興味深い印象を受けた。

津田委員

野川地域の社会福祉協議会から参加している。アリーノは近くにあって遠く感じている。交通の便が悪く、また、「アリーノ」という言葉自体あまり出てこない。

市民館も遠い存在のため、市民館の指定管理者制度の導入の話も他人事的な立場だ。今、出てきた問題を考えると、アリーノも指定管理者制度を導入しているので、問題解決のために、このような会議を開くことがいいのではと思った。

小倉部会長

指定管理を受けている立場として、参考になる意見をアリーノへ聞いているか。

豊本係長

アクティオ株式会社始め、大手の業者には担当者から取り組みを聞いている。

小倉部会長

業者の中には、ハードが得意な会社とソフトが得意な会社がある。得意なものが異なるところがJVを組むことで、偏らない形で、市民へのサービスが低下することがないようにすべきだと思う。見極めをしっかりとしてほしい。

山口シニアディレクター

アクティオ株式会社は総務省では、「その他サービス業」となっている。指定管理者は異動がないため、地域に溶け込み、密着した地域づくりができる。地域に入り込むことができることが指定管理者の大切な部分であるため、これからは、もっと地域に広く出て行くアウトリーチが必要だ。

永野委員

市民活動支援コーナー利用者連絡会では、2階のフリースペースの活用について検討している。その中で、様々な活動をしたいが外に向けて宣伝ができないという意見が出ている。アリーノの前のバス停を利用する人へも何が行われているか宣伝できたらと思う。掲示できるような装置ができるといいと思う。

小倉委員

デジタルサイネージがあればいいと思う。

山口シニアディレクター

町内会や施設などでは、必ず掲示のガラスケースがある。アリーノでは掲示板がないので、道路に面したガラスに貼っている。掲示板は必要だと思った。

永野委員

参加者がわかりやすいものが欲しい。

鴨志田委員

館の主催事業に関しては表立って宣伝するが、市民活動支援コーナーはアリーノの2階に限られているので、留まりがちだ。小倉部会長からは、先進事例と挙げて頂いたが、当事者としてはとても問題を抱えたままだ。

様々な団体が活動しているが、横の連携が難しい。自分たちの活動には一生懸命だが、運営に関わる人が出てない。横の連携をする人が限られ、負担を抱えがち

だ。課題として、ボランティアの限界を感じることもある。今後に向けて、市民の声を吸い上げながら進めていくことは、先を見据えた時に、愛される施設になる。この地域は人が動く地域のため、地元意識を育てていくことが新しい市民館に求められると期待している。世の中が閉塞感を持ち、人々の余裕がなくなっている中で、新しい施設が担う役割が大きい。そのためには、市民の声が重要だと思っている。

小倉部会長

川崎市にはSDC（ソーシャルデザインセンター）があるが、以前よりSDCは市民館内に椅子と机があれば実現できると言ってきた。市民館や役所は川崎市の管轄だが、教育委員会側と市役所側の連携がとれていないことが問題だ。

今、宮前市民館の2階でもカフェをやっているが、市民の視点で見れば、拠点があり、専門の人がいて自由に集える場所ができるのであれば、SDCとして市民館が一番適切だと思う。今の市民館にはフリースペースがなく、自由に集うことができない。また、マルシェができなかつたり、有料の講座ができなかつたりと市民団体にとっては難しい問題だ。宮前市民館で言うと、ホール以外の会議室では、有料の講座はできない。市民の不便さがあることを行政側がわかっていないように感じる。行政は市民活動団体が使いやすいもの、市民活動団体が自立を目指せるものを考えてほしい。例えば、今は、講座を行うために、講師費用や会場費、印刷代など、自分たちがお金を出して活動する以外できない。市民活動団体の自立という意味で、有料で資金を集めて活動できるような市民館になればいいと思う。市民活動団体は営利を目的としている訳ではなく、今の若い人は特に、ツーペイでなければ活動できない。例えば、事前に申請書を提出した上で、有料で活動できるというシステムを、指定管理制度では導入してほしい。何故、市民館から人が離れるか、是非、教育委員会として考えてほしい。そうすれば、市民は戻ってくるはずだ。

生駒副部会長

菅生分館を良く使用している。共催で活動する場合は使いやすい。分館の使いやすさを参考にさせていただいてもいいと思う。

小倉部会長

以前より、市民活動団体と宮前市民館が協働で活動する機会が減っているように感じる。例えば、橘分館では、市民が企画から参加し協働で開催する事業もある。ソフトの面でも、様々なことができる体制を整え、市民の要望を理解した上で仕様書を作成してほしい。市民館のあり方を検討する際に、フレキシブルな使い方や、市民の要望を取り入れ、一緒に作り上げていってほしい。

伊藤委員

有馬・野川生涯学習支援施設は、旧有馬村・野川村という意味か。施設を利用する対象区域を考えると、どの区域を対象にするかを明らかにし、施設の運用を考えるべきだ。

津田委員

交通の便が良ければ、もっと使いやすくなる。

境館長

駐車場も広げられないことやシャトルバスなどの走行も難しいため、野川地域からは来にくいということは、アリーノの課題だ。そのため、アウトリーチが必要だ。

小倉部会長

野川方面へのアウトリーチを考えることをアリーノへはお願いしたい。アウトリーチすることで、アリーノの認知と使用に繋がっていくと思う。

(4) その他

ア 次回の開催日日程について

令和4年度第2回有馬・野川生涯学習支援施設専門部会は、11月8日(火)14時から開催されることに決定した。

閉 会